

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出

⑫ 公開特許公報(A) 平2-18

⑤ Int. Cl.⁵
G 06 F 11/10識別記号
3 3 0 L
庁内整理番号
7368-5B

⑬ 公開 平成2年(1990)

審査請求 未請求 請求項の数 1

⑭ 発明の名称 ファイル書き込みデータのチェック方式

⑮ 特 願 平1-8111

⑯ 出 願 平1(1989)1月17日

⑰ 発 明 者 土 屋 洋 志 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富
内

⑱ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

⑲ 代 理 人 弁理士 井 桁 貞一

明 細 書

1. 発明の名称

ファイル書き込みデータのチェック方式

2. 特許請求の範囲

特定の誤りチェック符号を生成・付加してファイル記憶装置(6)へ書き込んだデータをリードして、該誤り符号チェックを行う機構をファイル記憶制御回路(5)に備えたシステムにおいて、

記憶装置(2)から該ファイル記憶制御回路(5)に書き込みデータを送出する毎に、該書き込みデータを蓄えるバッファ(3)と、

該バッファ(3)に蓄えられたバッファデータと上記特定の誤りチェック符号によるチェック時のリードデータとを比較するコンペア回路(4)を備え、

上記ファイル記憶装置(6)へ書き込んだデータをリードして誤り符号チェックを行っている間に、

記ファイル装置(6)からのリードデータベアチェックを行うことを特徴とする書き込みデータのチェック方式。

3. 発明の詳細な説明

〔概要〕

特定の誤りチェック符号、例えば、巡回符号(CRC)を生成・付加してファイル記憶装置(6)へ書き込んだデータをリードして、該巡回符号(CRC)チェックを行う機構をファイル記憶制御回路(5)に備えたシステムにおけるファイル書き込みデータのチェック方式に関し、

記憶装置からファイル記憶制御回路(5)間たデータ化けにより、システムの信頼度を防止することを目的とし、

記憶装置から該ファイル記憶制御回路(5)間たデータを送出する毎に、該書き込みデータを蓄えるバッファと、該バッファに蓄えられ

特開平 2

ファイル記憶装置へ書き込んだデータをリードして、巡回符号(CRC) チェックを行っている間に、上記バッファに蓄えられている記憶装置からの書き込みデータと、そのデータに対応した上記ファイル装置からのリードデータとのコンペアチェックを行うように構成する。

〔産業上の利用分野〕

本発明は、特定の誤りチェック符号、例えば、巡回符号(CRC) を生成・付加してファイル記憶装置へ書き込んだデータをリードして、該誤り符号チェックを行う機構をファイル記憶制御回路に備えたシステムにおけるファイル書き込みデータのチェック方式に関する。

最近のデータ処理システムのオンライン化動向に伴い、データ処理システムの信頼度の向上に対する要求は益々高くなっており、例えば、記憶装置からファイル記憶装置にデータを書き込む途上においてデータ化けが発生した場合、該ファイル記憶装置への書き込み過程に、例えば、巡回符号

(CRC) を付加するチェック機構があるデータ化けを起こしたことが検出される記憶装置に格納されて該データエラーし、後で、該データを読み出してデータ化けの途上においてデータエラーが検出されるリカバリ処理が複雑となることから、データ化けに対する事前チェックができる書き込みデータのチェック方式が要求される。

〔従来の技術と発明が解決しようとする課題〕

第2図は従来のファイル書き込みデータのチェック方式を示した図であり、(a) は構成例を示し、(b) は動作タイムチャートを示している。

従来のファイル記憶装置、例えば、ディスク装置(デッキ)6 に対するデータのチェックは、フロッピィコントロール回路において、記憶装置(メモリ)2 から1トラック書き込むときに、例えば、データに対する巡回符号(CRC) を生成し、

- 3 -

書き込み、該書き込み終了後、そのトラックをリードして該フロッピィコントロール回路5で、該巡回符号(CRC) によるチェックを行っていた。

〔(b) 図の動作タイムチャート参照〕

この従来方式では、フロッピィコントロール回路5とフロッピィディスク装置(デッキ)6 間でのデータ異常しか検出できず、記憶装置(メモリ)2 とフロッピィコントロール回路5間でのデータ異常が検出できない為、そこでデータ化けが発生しても、見掛け上、正常に終了してしまい、後で、そのデータを使用しようとしても、前述のよにう他のデータに化けてしまっていて使用できなくなるという問題があった。

本発明は上記従来の欠点に鑑み、ファイル記憶制御装置で、特定の誤りチェック符号、例えば、巡回符号(CRC) を生成・付加してファイル記憶装置へ書き込んだデータをリードして、該巡回符号(CRC) チェックを行う機構をファイル記憶制御回

- 4 -

路装置に入力される以前に、記憶装置と該ファイル記憶制御装置間で発生したデータ化け(データエラー)を常(データ化け)をチェックする方式を目的とするものである。

〔課題を解決するための手段〕

上記の問題点は下記の如くに構成した書き込みデータのチェック方式による。

特定の誤りチェック符号、例えば、巡回符号(CRC) を生成・付加してファイル記憶装置(フロッピィディスク装置:デッキ)へ書き込んだデータをリードして、該巡回符号(CRC) チェック機構をファイル記憶制御回路(フロッピィコントロール回路)に備えたシステムにおいて、記憶装置(メモリ)から該ファイル記憶制御回路に書き込みデータを送出する毎に、データを蓄えるバッファと、

特開平 2-

とを比較するコンペア回路を備え、

上記ファイル記憶装置へ書き込んだデータをリードして巡回符号(CRC)チェックを行っている間に、上記バッファに蓄えられている記憶装置(メモリ)からの書き込みデータと、そのデータに対応した上記ファイル記憶装置からのリードデータとのコンペアチェックを行うように構成する。

〔作用〕

即ち、本発明によれば、特定の誤りチェック符号、例えば、巡回符号(CRC)を生成・付加してファイル記憶装置(フロッピィディスク装置:デッキ)へ書き込んだデータをリードして、該巡回符号(CRC)チェックを行う機構をファイル記憶制御回路(フロッピィコントロール回路)に備えたシステムにおいて、フロッピィディスク装置(デッキ)に対する書き込みデータをチェックするのに、記憶装置(メモリ)からフロッピィコントロール回路にデータを送出する毎に、データを蓄えておくバッファと、該バッファのデータと、フロッピィ

ィコントロール回路において、該フロッピィ装置(デッキ)からの該書き込んだリードして、上記巡回符号(CRC)チェックしている期間に、該リードデータと上記バデータとのコンペアチェックを行うこと憶装置(メモリ)からの書き込みデータッピィディスク装置に実際に書き込まれたデータとの一致チェックを行うことができ度を落とすことなく、記憶装置(メモリ)ッピィコントロール回路間のデータ異常クすることができる効果がある。

〔実施例〕

以下本発明の実施例を図面によって詳

第1図は本発明の一実施例を示した図(a)は構成例を示し、(b)は動作タイムを示し、(a)図におけるバッファ3、コ路4が本発明を実施するのに必要な手段尚、全図を通して同じ符号は同じ対象物いる。

- 7 -

以下、第1図によって、本発明のファイル書き込みデータのチェック方式を説明する。本発明を実施しても、フロッピィコントロール回路5において、記憶装置(メモリ)2からの書き込みデータに対して、巡回符号(CRC)を生成、付加してフロッピィディスク装置(デッキ)6に書き込み、該書き込んだデータをリードして、該巡回符号(CRC)チェックを行う手段については、特に、従来方式と変わることはないので省略し、ここでは、記憶装置(メモリ)2から読み出された書き込みデータと、フロッピィディスク装置(デッキ)6に、実際に書き込まれたデータとをコンペアする動作を中心にして、本発明のファイル書き込みデータのチェック方式を説明する。

まず、記憶装置(メモリ)2からフロッピィコントロール回路5に、複数個のセクタからなる1トラックの書き込みデータを送出する毎に、バッファ3に該1トラックの書き込みデータを蓄積し

- 8 -

て、前述の巡回符号(CRC)チェックを行み出したデータと、上記バッファ3に格いたデータとを1書き込み動作毎に、(b作タイムチャートに示した如く、上記巡回RC)チェックの期間中に並列に、コンペクを行うようにする。

このようにすることで、記憶装置(メモリ)から読み出された書き込みデータと、実ロッピィディスク装置(デッキ)6に書たデータとの一致をとることができるの憶装置(メモリ)2とフロッピィコントロール5間で発生したデータ異常、即ち、デを、処理速度を低下させることなく検出ができる。

上記の実施例においては、ファイル記して、フロッピィディスク装置(デッキ)にして説明したが、これに限定されないう返もないことである。

特開平

記憶装置（フロッピーディスク装置：デッキ）へ書き込んだデータをリードして、該巡回符号（CRC）チェックを行う機構を、該ファイル記憶制御回路に備えたシステムにおいて、該ファイル記憶制御回路で巡回符号（CRC）チェックを行っている間に、該フロッピーディスク装置への書き込みデータと、実際に書き込まれたデータとのコンペアチェックを、該巡回符号（CRC）チェックと並列に行うことで、処理速度を落とすことなく、記憶装置（メモリ）とフロッピーコントロール回路間でのデータ異常を検出するようにした所に特徴がある。

〔発明の効果〕

以上、詳細に説明したように、本発明のファイル書き込みデータのチェック方式は、特定の誤りチェック符号、例えば、巡回符号（CRC）を生成・付加してファイル記憶装置へ書き込んだデータをリードして、該巡回符号（CRC）チェックを行う機構をファイル記憶制御回路に備えたシステムにお

けるファイル書き込みデータのチェック方式において、記憶装置（メモリ）から該ファイル記憶制御回路に書き込みデータを送出する毎に書き込みデータを蓄えるバッファと、該バッファに蓄えられたバッファデータと上記巡回符号によるチェック時のリードデータとを比較するコンペア回路を備え、上記ファイル記憶装置からリードしたデータをリードして巡回符号（CRC）チェックを行っている間に、上記バッファに蓄えられた記憶装置（メモリ）からの書き込みデータと、そのデータに対応した上記ファイル記憶装置からリードデータとのコンペアチェックを行うものである。このように、該記憶装置（メモリ）に書き込まれたデータと、フロッピーディスク装置に書き込まれているデータとの一対一を比較することができ、処理速度を落とすことなく記憶装置（メモリ）とフロッピーコントロール回路間のデータ異常をチェックすることがある。

- 1 1 -

- 1 2 -

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示した図。

第2図は従来のファイル書き込みデータのチェック方式を示した図。
である。

図面において、

2 は記憶装置（メモリ）、

3 はバッファ、

4 はコンペア回路、

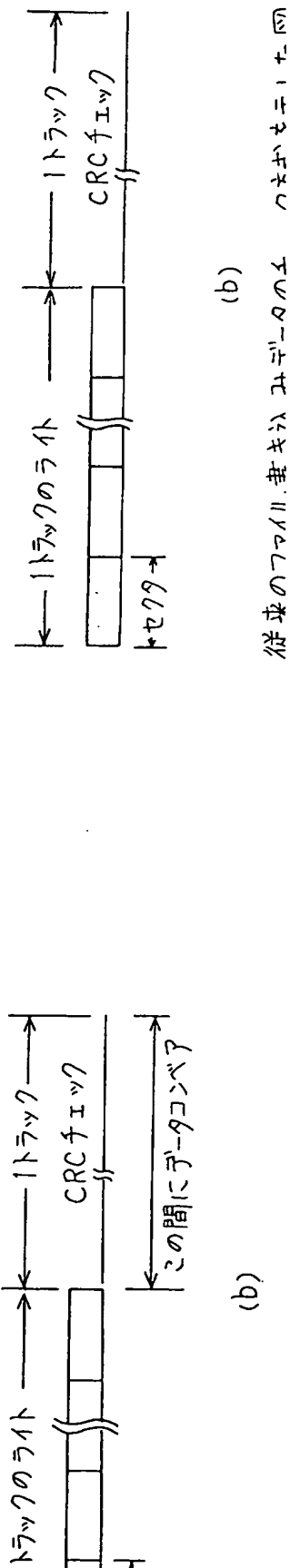
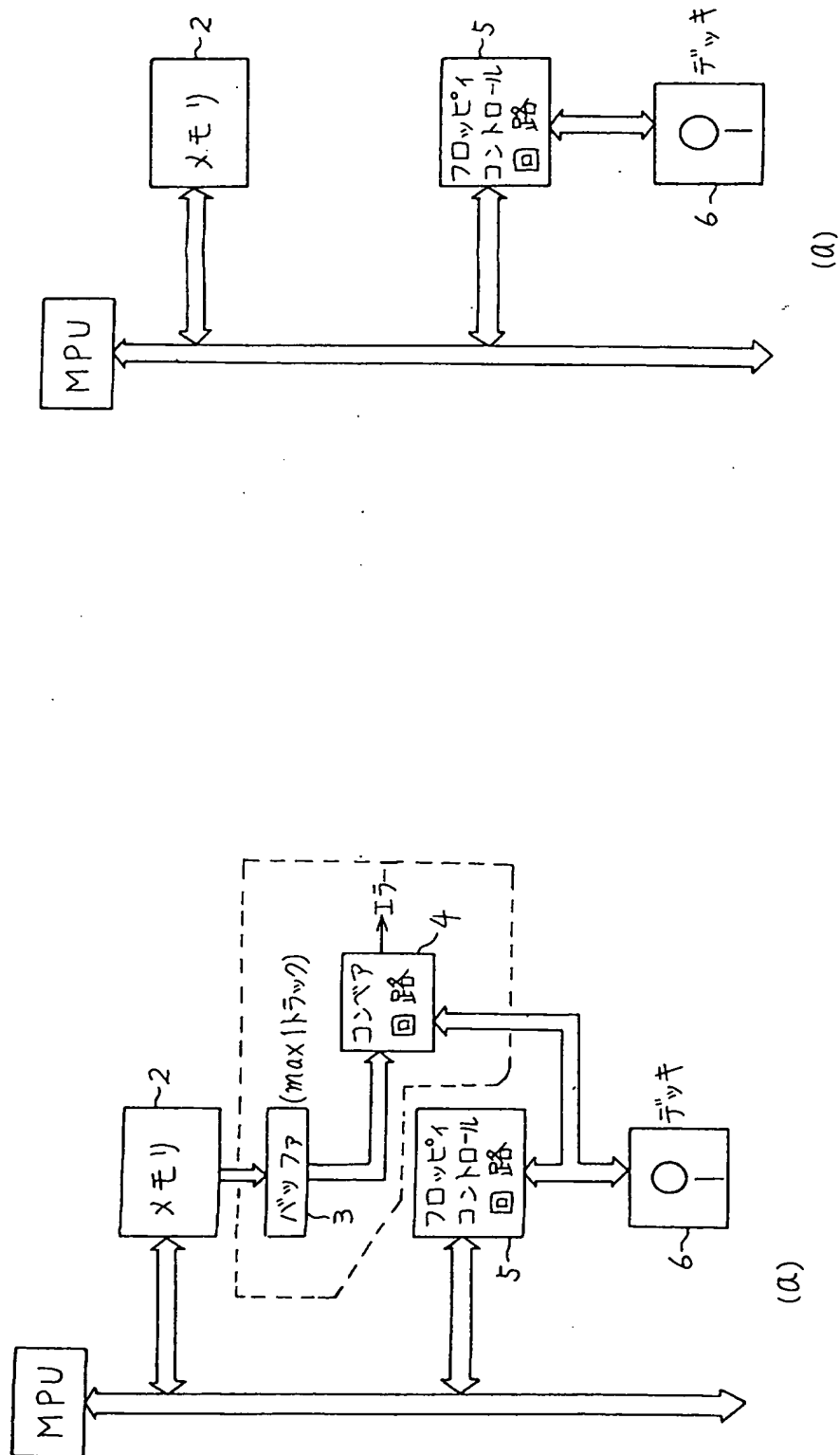
5 はファイル記憶制御回路、又は、フロッピーコントロール回路、

6 はファイル記憶装置、又は、フロッピーディスク装置（デッキ）、

CRC は巡回符号、

をそれぞれ示す。





従来のフロッピーディスクコンピュータのシステム構成図